

2015年(平成27年)12月5日 No.674

2016年度 新キャンペーンの 展開にあたって

マルカキカイは、本日より創業70周年の節目となる2016年度がスタートします。

今年度のキャンペーンスローガンは、
主題が

「日米中亜 四極体制 実を結べ!! 70周年」

副題が

「新生マルカ 新たな目標510」です。

世界四極体制を「利益循環型の営業」、「地域社会や文化に根付く現地化の推進」を目指して3年前に立ち上げ、体制の変革、組織の進化と深化を図ってきました。

今年度は中期計画を立て2016年の創立70周年に向け、全社を上げて取り組んできた総仕上げの年です。

今年度スローガンの主題の意味は、「日米中亜四極体制」が目指すものを今年度で完成させよう。70周年の2016年度は、後々まで語りつがれる実績を残そうという気概を持って1年間に取り組んでいこうという主旨です。

副題の「新生マルカ」の意味は、2016年度が中期計画の最終年度ではありますが、決してゴールではなく通過点であり、次の80周年に向けたスタートの

年として、心機一転新しいマルカキカイに生まれ変わると同時に新しい自分を作りあげ、自らが未知の領域に踏み込んで挑戦していこうという主旨です。今年度は、あらゆる面で未知の領域に踏み込んで失敗を恐れず果敢に挑戦します。

みなさんも先頭に立って「やったるでえ、まかしときい」と、自らが「目標510」の主役となり、活躍の場を広げて欲しいと思います。

最近、多くの会合で「潮目が変わってきた」「潮目を読むことが大事」という話題を耳にします。潮目とは異なるものが合流する境目の意味です。

現代は変化が激しいのみならず、社会的、政治的、経済的に様々な事柄が世界規模で影響し合う、混沌とした状況にあると言えます。潮目の読みで失敗すれば結果が予想と全く逆とすることが起こり得ます。

新生マルカが未知の領域へ果敢に挑戦するうえで、潮目を読み違えず前進する為に必要なことは、何事においても「前例と同じ」から脱却することと、「やってやろう! やりましょうよ!」との気概の声が社員全員から自発的に湧き上がることです。2016年度はみなさんにこのことを大いに期待しています。

今月のことば

乾 相談役

○ 起業家的発想

商品を売買するだけが営業であるという感覚では、これからの発展は望めない。既存の営業スタイルだけでは不十分で、それにプラスして起業家的発想が必要な時代になってきた。最近では新しい事業を興す、国内のみならず海外の会社と提携する、社内の事業を一から見直しすることが、ますます重要になっている。顧客ニーズに応える提案力、新鮮で有益な情報の提供力、新規事業の開発力、共同事業のコーディネート力等仕事を仕組んで仕掛ける為の能力が求められる。

世の中の変化がスピードアップし、活動範囲がグローバルに拡大する現代は、単純に売買だけでは大きな成績を上げていても将来衰退するだけで、更に仕事を仕組む、新しい仕事づくりをする人でなければ通用しない時代になっている。起業家的発想と経営者の視点で、新しい仕事を仕組み、仕掛ければ、それは大きなビジネスチャンスを生み、会社に大きな貢献をもたらす引き金になる。反対に、従来と同じままでは業績は向上しない。変化への感覚を研ぎ澄まし、幅広い知識の習得と、それを使いこなす知恵を鍛えて、起業家的発想を一層養う必要がある。勉強することはたくさんある。会社をあげて勉強する機会を増やさなければならない。単なるセールスに止まらず、企業家的発想ができる営業マンになることを目指そう。

○ 説得と納得

説得力が仕事を前進させる。この仕事は何故必要かを関係者全員が納得した上で取り組まなければ、全員が一丸となれずチームワークが乱れて、目標の成果を上げることはできない。大きな仕事になればなるほど、地域的にも広範囲で、商品も複雑多岐に亘ることから、表舞台に立つ人間以上に大勢の裏方が重要となる為、一層強いチームワークが必要になり、説得と納得が重みを増す。リーダーの出した指示が、思いつきとか言いっぱなしだとメンバーに受け取られては、一時的には成功しても持続性のない根無し草のような中途半端な仕事で終わってしまう。そうならない為にも、リーダーが常に今の仕事の意義をメンバー全員に対して、納得するまで説得し続けることが必要である。

我が社の営業の現場は社外が殆どである。核心を理解し、柔軟かつ臨機応変に判断しなければ仕事は進まない。メンバーが仕事の基本軸をしっかりと理解し納得していれば、自己の責任で物事が判断でき、フレキシブルな対応が可能となる。そうすれば権限の委譲が進むことになる。但し、責任は委譲できない。そうでなければ、何事も指示を仰ぐことになり、結果として硬直化した教科書的な対応しかできなくなり、いつまでも権限を委譲することはできない。リーダーの仕事は業績の管理以上

に、メンバーに仕事の目的、意義をしっかりと説得し納得させることが重要である。評価も結果だけで判断するのではなく、仕事のプロセスを重視することが大切である。

○ ガバナンス

不適切会計問題、マンションデータ偽装、タイヤ検査データ改ざん、排ガス不正等、大企業の不祥事が大きく報道されている。会社の規模やネームバリューからは考えられない不祥事であり、会社の存続にも関わりかねない大変な事態である。上からの指示なのか、中間の人間が勝手にやったのか、担当者の手抜きなのか、原因はまだ不明だが、信用の回復には莫大な時間と費用を費やさねばならないであろう。目先の利益の為に不正を行い隠ぺいすることで、何十年もかけて築いた会社全体の信用を、一瞬で失う通常では考えられない不祥事である。

共通する要因は1)自分の為に無謀な利益を得ようとするあせり。2)明らかに間違っている指示を鵜呑みにする。3)上司は指示を出すだけで、後は担当者にまかせきり。4)上司が仕事を丸投げする。5)仕事のダブルチェックがなく担当者が単独で行動。が考えられる。社会的にやってはならないことを、目先の利益や自分の保身に目がくらんで手を出してしまうなどは、絶対にやってはいけない。当社でも海外製品を拡販していく中で、売りっぱなし、アフターケアなしでは、万一クレームが発生すれば大きな信用問題になることを、肝に銘ずる必要がある。今回の一連の不祥事は他人事と思わず、他山の石として教訓とすべきである。

○ 変化せよ

世界中が大きく変わろうとしている中で、我々も変化を続けなければ限り貧になる。変化することには大きなリスクと抵抗を伴う為、強い意志と覚悟が無ければ最後までやり遂げることはできない。変化するためには、目の前のことに囚われるのではなく、視野を広げて世界を見渡すことが重要であり、歴史から学ぶこともたくさんある。

現代は知価革命の時代である。知識、知恵、情報、ノウハウ等が、過去のどの時代よりも、価値として高い評価を得ている。ハードよりもソフトがますます重要になっている。変化はソフトから始まる。変化をいち早く取り込んだ企業が、大きく業績を伸ばす。同じ業種でも企業間の格差が大きく開く原因である。変化を取り込む為には、新しいマーケティング、システム等を取り入れることが必要である。新しい分野を開拓することは苦労も多いが、仕事に充実感と達成感が湧き、その結果業績が大きく伸びる。既存の上に安住することなく、常にチャレンジャーの気持ちで新しい変化を追及していく気概を持とう。

マルカの動き

11月

動き

11月 5日：2016年計画委員会

11月17・18日：MM会総会

新入社

西田 邦彦 保険部 (11月1日付)

伊藤 麻衣子 東京産業機械第二部
(11月16日付)

表彰

◆ 殊 勲 賞

東京産業機械第二部 第二課 課長 安藤 幹雄
※二本受賞

マルカ・メキシコ セールスマネージャー 千葉 恭平
※二本受賞

静岡営業所
東京産業機械第二部 第一課 窪田 健人

◆ 一 般 表 彰

【貿易実務検定C級】
業務部大阪産機・機材 井上 綾子

マルカタイ社がMETALEXタイ2015に出展いたしました!!

マルカタイ社は11月18日(水)～21日(土)の4日間、バンコック近郊BITECで開催されたアジア最大級の展示会METALEX2015に、パイプバンダー、洗浄機及びイオン水生成装置、スポット溶接機、自動シャッター、エアマイクロ測定器、ガス調整器等を出展いたしました。

開催毎に来場者数が増え続けてきた中、情勢の影響か今年は73,938人の来場(前年比2,000人減)でしたが、当社ブースへの来場社数は253社(前年比25%増)

で終始活気あふれる中、無事4日間を終えました。

ご協力頂いたメーカー様に感謝申し上げますとともに、引合・成約に向け、今後全力で取り組みますので引き続きご支援を、お願い申し上げます。



新キャンペーン 開幕!!

12月1日 → 2月29日

2016年度キャンペーン

**日米中亜 四極体制
実を結べ!! 70周年**

Maruka's Four Sales Powers are united
to Achieve Fruitful 70th Anniversary

新生マルカ 新たな目標510

Stepping forward to the Next Stage with New Aspiration 510

< I >

マルカキカイグループ 2016 上期役割決定

◎四極営業本部

- 日本(産業機械本部、グローバル機材本部、建設機械本部、保険部)
- 米州営業本部 統括本部長 安田 洋祐
- 中国営業本部 統括本部長 難波 経久
- 東南アジア・インド営業本部 統括本部長 三好 辰夫

マルカキカイ株式会社

◎本部機構

【I】産業機械本部

- 本部長 真鍋 聡
- 副本部長 (ケ) 難波 経久

【II】グローバル機材本部、台北支店

- 本部長 神田 晃三

【III】社長付特命部長・機材・新商品担当

- 担当部長 片岡 敬夫

【IV】建設機械本部

- 本部長 砂河 利文

【V】保険部

- 担当役員 吉儀 裕之

【VI】東京支社、中部支社

- 東京支社 支社長 (ケ) 二橋 春久
- 中部支社 支社長 諸富 秀一

【VII】管理本部

- 本部長 飯田 邦彦
- 副本部長 若田 芳弘

【VIII】経営企画室

- 担当役員 (ケ) 二橋 春久
- 室長 (ケ) 高木 修

【IX】内部監査室

- 室長 荻野 純一

【X】社長付特命部長・輸出管理担当

- 担当部長 下條 吉治

【XI】海外統括室

- 室長 久富 周二

【XII】秘書室

- 室長 佐藤 壮彦

【産業機械本部】

- 1. 大阪産業機械第一部 部長 山口 旨博
- 2. 大阪産業機械第二部 部長 渡辺 貴久
- 3. 東京産業機械第一部 部長 吉田 雅樹

- 4. 東京産業機械第二部 部長 熊谷 了輔
- 5. 名古屋産業機械第一部 部長 佐藤 春樹
- 6. 名古屋産業機械第二部 部長 栗栖 俊彦
- 7. 岡山支店 支店長 大泉 泰宏
- 8. 福岡支店 支店長 金子 哲成
- 9. 静岡営業所 所長 佐野 力哉
- 10. 自動車部品部 部長 高木 修

【グローバル機材本部】

- 1. 機材部 部長 吉田 栄利
- 2. 国際営業部 部長 (ケ) 神田 晃三
- 3. 台北支店 支店長 中嶋 栄男

【建設機械本部】

- 1. 大阪建設機械部 部長 (ケ) 砂河 利文
- 2. 堺レンタルセンターセンター長 島津 二彦
- 3. 東京建設機械部 部長 岡村 慶太
- 4. 東北支店 支店長 小関 徹
- 5. 福岡支店 支店長 (ケ) 金子 哲成
- 6. 建機輸出部 部長 (ケ) 田伏 辰夫
- 7. シンガポール事務所 所長 Lau Chee Wai

【保険部】

- 部長 宇都 茂樹

【管理本部】

- 1. 総務部 部長 (ケ) 若田 芳弘
- 2. 財務部 部長 (ケ) 若田 芳弘
- 3. 経理部 部長 西本 和彦
- 4. 業務部 部長 加納 敬司
- 5. 業務部大阪産機・機材 部長 (ケ) 加納 敬司
- 6. 情報システム部 部長 田村 佳照
- 7. 広報室 室長 (ケ) 若田 芳弘
- 8. 法務部 部長 (ケ) 加納 敬司

ソノルカエンジニアリング株式会社

取締役会長	釜江 信次
取締役社長	谷口 徹
[1] 統括	
営業統括本部長	高守 孝一
技術統括本部長	本國 積
設計統括本部長	永野 和弘
冷温システム本部長	諏訪 敦哉
1. 業務部	
部長	中村 四郎
2. 営業部	
部長	(ケ) 高守 孝一
3. 調達部	
部長	谷口 徹
4. 検査・品質保証部	
部長	津田 栄三
5. サービス部	
部長	(ケ) 本國 積
6. 設計部	
部長	(ケ) 永野 和弘
7. 冷温システム本部	
(1) 営業部	
部長	(ケ) 諏訪 敦哉
(2) 業務部	
部長	(ケ) 中村 四郎
(3) 製造部	
部長	(ケ) 諏訪 敦哉

ジャパンレンタル株式会社

取締役社長	高岡 幸一郎
取締役兼執行役員	小塚 芳子
1. 総務・経理部	
部長	小塚 芳子
2. 営業部	
統括部長	甲田 藤信
部長	高山 幸雄
3. 機工部	
部長	(ケ) 甲田 藤信

【米州営業本部】

- MARUKA U.S.A. INC.**
(マルカ・アメリカ社)
取締役社長 Gary D.Lowery
副社長 嶋林 直人
取締役 竹下 敏章
- INDUSTRIAL TOOL,INC.**
取締役会長 Gary D.Lowery
最高経営責任者兼最高財務責任者 Richard C.Lueck
取締役 嶋林 直人
取締役 飯田 邦彦
- MARUKA MEXICO S.A. DE C.V.**
(マルカ・メキシコ社)
取締役社長 安田 洋祐

【中国営業本部】

- 上海丸嘉貿易有限公司**
董事長総経理 難波 経久
副総経理 碓 宏一朗
無錫営業所長 (ケ) 碓 宏一朗
総経理 (天津分公司) (ケ) 難波 経久
- 広州丸嘉貿易有限公司**
董事長 難波 経久
総経理 長尾 学

【東南アジア・インド営業本部】

- MARUKA MACHINERY (THAILAND) CO.,LTD.**
(マルカ・タイ社)
取締役社長 黒澤 淳一
取締役 三好 辰夫
ピントン支店長 有沢 悟
- MARUKA EXPORT (THAILAND) CO., LTD.**
(マルカ・エクスポート社)
取締役社長 中島 勝矢
取締役 黒澤 淳一
- P.T. MARUKA INDONESIA**
(マルカ・インドネシア社)
Komisaris 竹下 敏章
President 三好 辰夫
Director 新谷 英明
- MARUKA (M) SDN.BHD.**
(マルカ・マレーシア社)
取締役社長 Chan Kok Leong
取締役 竹下 敏章
営業第一部長 龍野 浩二
- MARUKA ENTERPRISES INC.**
(マルカ・フィリピン社)
取締役社長 三好 辰夫
取締役 真鍋 聡
営業部長 小林 大和
- MARUKA INDIA PRIVATE LIMITED**
(マルカ・インド社)
取締役社長 黒澤 淳一
取締役 田川 聡
- MARUKA VIETNAM CO.,LTD.**
(マルカ・ベトナム社)
取締役社長 富田 昌孝
取締役 黒澤 淳一
取締役 真鍋 聡

※(ケ)は兼任



		タイ	インドネシア	マレーシア	フィリピン	台湾	広州	備考
GDP成長率 (%)	2014年	2.0%	5.1%	4.6%	6.4%	3.4%	7.4%	推定値
	2015年	4.5%	5.2%	6.2%	6.7%	3.5%	6.5%	予測値
物価上昇率 (%)	2014年	2.1%	6.0%	3.5%	4.8%	1.4%	1.1%	推定値
	2015年	2.4%	5.0%	3.5%	4.9%	0.9%	2.4%	予測値
為替相場 (対米ドル)	15/ 9/10	B36.19	Rp13,225	M\$4.20	P46.85	NT\$32.80	RMB6.370	1\$=120.24円
	15/10/10	B35.85	Rp13,680	M\$4.25	P45.87	NT\$32.40	RMB6.350	1\$=119.99円
	15/11/10	B36.05	Rp13,595	M\$4.25	P47.15	NT\$32.84	RMB6.360	1\$=123.20円
	今後の傾向	↗	→	→	→	→	↘	
短期金利		1.50%	7.50%	6.25%	4.00%	4.00%	4.35%	
	今後の傾向	→	→	→	→	↘	↘	
失業率		0.90%	6.18%	3.10%	6.30%	3.90%	4.50%	

マルカ駐在員からのコメント

経営再建中の国営タイ航空は2015年7~9月期の純損益が99億パーツの赤字だったと発表した。同社の今年1~9月期の赤字額は181億パーツとなり、前年同期の92億パーツから拡大した。

今年7~9月は職員428人が希望退職し、リストラ費用などが307億6,400万パーツに膨らんだ。燃料費は同16%減の164億3,400万パーツだったが、営業収支は27億8,600万パーツの赤字。

タイは毎年10~12月期が本格的な観光シーズンとなり、格安航空会社との競争による運航収入の伸び悩み、300億パーツを超えるリストラ費用の計上が一層経営を苦しめている。

インドネシア中央統計局は、2015年第3四半期の実質GDP成長率が前年同期比4.73%だったと発表した。第2四半期の4.67%から上向いたが、世界的な景気低迷に伴う輸出入の鈍化が響き、事前に予想されたほどの回復には至らなかった。

第3四半期の支出項目別の成長率は、GDPの過半を占める民間消費が4.96%と前期からわずかに減速したが、政府消費は予算執行が進み、6.56%だった。投資に当たる総固定資産形成も4.62%と前期から加速したが、輸出入は不振が続く。輸出は▲0.69%、輸入は▲6.11%といずれもマイナス成長を記録した。

マレーシアの中央銀行であるバンク・ネネガラ(BNM)は13日、2015年第3四半期(7~9月)の国内総生産(GDP)がプラス4.7%成長となったと発表した。過去2年間で最低の伸び率となった。

民間消費は前年比2.3ポイント減の4.1%増と減速したが、民間投資は前年比1.6ポイント増の5.5%増となった。

一方、前期で▲3.7%だったモノとサービスの輸出は、3.2%のプラスに転じた。公共支出は前期より減速し、3.5%となった。前期で▲8.0%だった投資は1.8%のプラスとなった。経常収支の黒字は51億リングとなり、前期の76億リングから縮小した。

フィリピン統計庁(PSA)は26日、今年第3四半期(7~9月)の国内総生産(GDP)の伸び率が前年同期比6.0%だったと発表した。

前年同期の5.5%(改定値)、前期(4~6月)の5.8%(同)から加速。輸出や鉱工業は低迷しているが、個人消費と政府支出の伸びが押し上げた。

世界経済の減速感が広がる中で、今回の6.0%成長は、フィリピンが安定成長を遂げていることを印象付けた数値である。

台南市政府は、同市に拠点を構えている日本企業に感謝を示し、11月23日を「日本の日」に定めた。20日には日本企業を招いたイベントを開催し、相互の関係を強力にした。

同市が「日本の日」の催しをするのは初。頼清徳市長はイベントを通じてお互いに理解を深め、さらに多くの日本企業に台南に投資してもらえるようになればと期待を示した。

同市によると、日本は同市最大の投資国であり、拠点を構えている日本企業は、当初の50社から現在では80社に増加した。

華南地区で製造業の工場閉鎖が相次いでいる。特に深圳市、東莞市を中心とする珠江デルタ地域では、ここ数ヶ月の間に少なくとも1万人以上の従業員が失業したとされている。

主な大型工場の閉鎖は携帯電話部品メーカーやタッチパネルメーカー等の電子製品に関連するメーカーが目立つ。倒産したメーカーの中には夜逃げするケースもあり、影響は自社工場でのデモ実施等が出ており、社会不安につながりそうな流れである。今後も安い人件費を求めて東南アジアに移す流れもあり、珠江デルタ地域では工場閉鎖が加速する恐れもある。文責=K.H

故若山顧問のお別れ会が執り行われました。



平成27年1月31日に逝去されました、当社顧問(元代表取締役会長)若山永太郎氏のお別れ会は、ご親族におかれまして青森市内にて執り行われました。

お墓は、青森市内のご両親の眠る三内霊園にて建碑されました。墓石には「俱會一處」(くえいっしょ=俱(とも)に一つの処で会う。阿弥陀様のお浄土に往生してそこでまた共に会わせていただくこと、の意)が刻まれています。

あらためまして、ご生前のご功績に心より敬意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。



フォローアップ研修を開催いたしました！！



(先輩2人との営業ロールプレイング)

10月28日、29日の2日間にかけて、15年新卒入社の社員及び中途入社若手社員を対象にフォローアップ研修を開催致しました。初日の28日は、りそな総研の社外研修に参加しました。まずは研修に向けての動機づけを行う為、入社してから半年間を振り返り、その後は組織・チーム内の日常業務の中での「報連相」とコミュニケーションについての解説や、「聴くスキル」に焦点をあてた実習をし、コミュニケーションの基礎力を体得しました。

2日目は、営業ロールプレイングや貿易実務・販売管理規程、コンプライアンス研修など、社内講師による盛り沢山のカリキュラムを実施しました。営業ロールプレイングでは、先輩社員をユーザー役に見立て、新入社員が営業訪問する設定で行いました。他の新入社員が行う自社説明・PR手法を客観的に観察することで、お互いに良い

刺激を受ける時間となりました。

その後の貿易実務や販売管理規程の研修では新たな気づきもあり、実際の仕事での疑問点を解消し、処理事項を確認することが出来ました。

研修で学んだことを活かして、日々の業務に励み、より一層飛躍することを期待します。

そして、同期とは良きライバルであると同時に、大切な仲間としてこれからも絆を大事にして欲しいと思います。

参加者の言葉：

- ・フォローアップ研修に参加して、改めて報連相など仕事の基本がまだまだ出来ていないと痛感した。
- ・今回学んだ多くの事を実務に戻って活かしていきたい。

マルカタイMM会(TMM会) カンボジア視察ツアーを実施いたしました。

2014年10月に発足しましたTMM会のカンボジア企業視察ツアーを会発足より1周年である10月21日～22日の2日間で実施いたしました。

TMM会は、タイ国内にてモノづくりをされている優れた専門技術を有するメーカー様及びサービス会社様の計12社で構成されております。

早朝、スワンナプーム空港を出発、約1時間でカンボジアの首都プノンペンに到着し、待ち針を生産し世界中に送り出しているMeikodo Cambodia Co.,Ltd.様を訪問いたしました。当工場には、独特のノウハウが詰まった製造装置の数々が並び、視察者皆様食い入る様に見学しました。

午後は、国内No.1シェアであるホンダ二輪車を一貫生産されているN.C.X Co.,Ltd様の工場を訪問し、完成・検査・出荷に至るまでの工程を見学しました。又市内視察先のイオンモールでは、食品機械メーカー様の冷蔵装置が使用されており、当地でも弊社が関係するメーカー様の数々の設備が活躍している事に感激いたしました。夜は、宿泊先ホテルの中華レストランにて、視察先の

代表様を交えた懇親会兼食事会を開催いたしました。

現地での生活や、仕事をを行うにあたっての苦労話等々、本音のお話を伺い非常に盛り上がりました。最後に、TMM会員代表であるThai Takigami Co.,Ltd.山本社長様より総評ご挨拶を頂き、初日を終わりました。

翌日はシェムリアップ地区を視察、地元クメール料理に舌鼓をうった(美味しかった!)後、世界遺産に指定されているアンコールワットを訪問、非常に暑い中、皆汗だくで、偉大な歴史的建築物を散策いたしました。

夕刻、解散式を行い、無事に終了することができました。今回の企業視察、懇親会を通じ会員様とより懇親を深めることができ、有意義なツアーとなりました。



(Meikodo Cambodia様工場視察)

○今回視察ツアーにご参加いただいた会員様

Chiyoda Kogyo(Thailand)Co.,Ltd.

Denyo Asia Co.,Ltd.

Eureka Design Public Company Limited.

Kanto Engineering (Thailand) Co.,Ltd.

Nastoa Welding Technologies(Thailand)Co.,Ltd.

Nissen Kohki Thai Co.,Ltd.

Robot System Co.,Ltd.

Takahashi Metal Industries(Thailand)Co.,Ltd.

Thai Takigami Co.,Ltd.



(N.C.X様工場視察)



(N.C.X様工場視察後の質疑打合せ)

○弊社主要出席者

二橋 春久 常務取締役兼営業統括

真鍋 聡 取締役兼産業機械本部長

マルカタイ社 General Manager Thammasak Techavaro 記